

本部かわら版

発行責任者
神奈川県隊友会
事務局 長 宮崎栄介



会務報告

県隊友会事務局

一 昨年12月発行のかわら版以降、県隊友会としては次のような事業を実施しました。

(1) 防衛諸団体賀詞交歓会

1月13日 かながわ労働プラザ
会席形式で実施 104名参加

(2) 県隊友会防災図上訓練

2月11日 地本2F試験室
会長以下22名参加

(3) 4・四半期県隊友会理事役会

2月23日 地本2F試験室
27名の参加を得て次の事項を審議・報告しました。

① 令和5年度事業計画(案)

② 令和5年度予算(案)

③ 県予算暫定試行の検証

④ 本部総会議決権行使・委任状作成要領

⑤ 支部長の任期について

⑥ 連絡事項

・会計(決算)業務

・年度末報告関連

・県主要役員等の選出依頼

⑦ その他

・令和5年度定期総会予定
・支部総会後の報告について

・神奈川自衛隊音楽まつり関連

(4) 県隊友会あり方検討

理事役会に引き続き実施
10年以上経過の終身会員に対する
隊友紙購読料徴収について

(5) 第2回安全防災部会

3月4日実施(メール会議22名参加)

(6) 神奈川自衛隊音楽まつり2023

3月5日 神奈川県民ホール
観客1202名

二 当面、県隊友会としては次の行事を実施します。

① 5月20日、令和5年度1/四県隊友会理事役会(地本試験室)

② 6月10日、県隊友会総会(労プラ)防衛講演会・懇親会

③ 6月22・23日、定時総会への参加



「老人スキーを楽しむ」

県隊友会会長 松岡貞義



青森県大湊基地での勤務経験がある退職海上自衛官有志が主体となり「むつ市スキー協会東京支部」を組織している。同支部では例年一月下旬頃に二十数名の会員がむつ市を訪れ、釜臥山スキー場でスキーを楽しんでいる。本州最北端の同スキー場は、海から二キロ弱しか離れていないため、真下にむつ市街地や陸奥湾、大湊基

地に停泊している艦艇を見ながらの滑走が楽しめるスキー場である。

私は気候温暖な四国松山の生まれであり、幼い頃にスキーに親しむ機会はなかった。大学時代のスキー訓練でボーゲンができるようになった程度の技量であり、海上自衛隊入隊後は北国での勤務経験もなく、スキーを楽しむ機会はなかった。ところが、五十歳代半ばで初めて大湊勤務となり、三十数年振りにスキーを履き、釜臥山グレンデでスキー訓練を受けたのであった。私の人生においてこの大湊勤務が無ければスキーを親しむことはなかったであろう。残念ながら大湊勤務は一年で転出となったが、退官後から数年間、スキー好きな同期生夫婦とともに長野県や北海道のスキー場に出かけスキーを楽しむ経験をしたのも大湊勤務のお陰であると思っている。

長引くコロナ禍のため東京支部のスキーツアーは中断されていたが、今年二月上旬に三年振りに再開され、私たち夫婦を含め総勢二十六名の会員が参加した。むつ市へは東京から東北新幹線を利用して八戸駅経由青い森鉄道(昔の大湊線)に乗り換え、野辺地から下北半島を北上することになる。車窓の右に防風林、左に陸奥湾の荒涼とした景色が続く中から釜臥山が見えてくると毎回懐かしさを覚える。



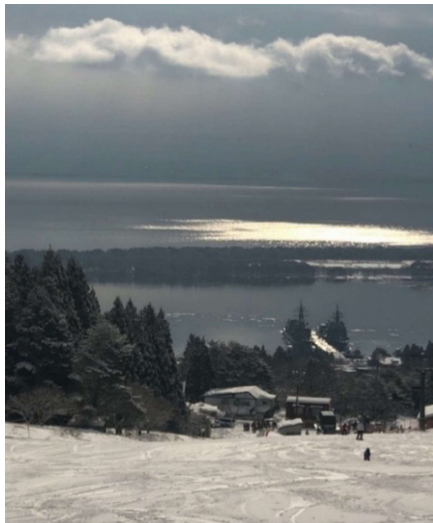
海から見た釜臥山

ツアー初日、釜臥山スキー場に登り、三年振りにスキーを履き、最初は用心しながらの滑りであったが、慣れるに連れてスムーズに楽しく滑走できるようになった。途中、調子に乗って油断し、斜面のコブに足を取られて何回か転んだ。昔はストックを支えにして自力で立ち上がったのだが、今回は自力では立ち上がれず、他の人の力を借りて立ち上がるか、一度スキーブーツをスキー板から外して立ち上

がる始末であり、つくづくコロナ禍を言い訳にした運動不足による脚力の衰えを実感させられた。それでも二日間に渡って年相応に滑りを楽しむことができたのは嬉しいことであり、スキースキーの醍醐味を味わうことができたことを喜んで



釜臥山スキー場には二本のリフトが設置されており、上級者コースに登る第一リフトは昨年むつ市が四億円をかけて改修したばかりである。今シーズンは第一リフトの初運行の年であり、是非とも第一リフトに乗って上級者コースを滑りたいと思っていた。六十歳代の頃は技量不足を自覚しながらも上級者コースに挑戦し、その都度急斜面で転倒しながらの滑りであった。今回は三年振りのスキーでもあり、上級者コースからの滑りは、初日は自重し、練度が上がった二日目の午後からと思っていたのだが、午後から山頂の空自リーダーサイトが雪雲に覆われ第一リフト周辺も吹雪いてきたため上級者コースに登るのは断念した。結果的に怪我無く終わったことに安堵している。



釜臥山スキー場から望む陸奥湾

もちろんスキーツアーの目的はスキーを楽しむことであるが、それにも増して私を含め参加者の多

くはスキーだけでなく、地元の人と再会し、酒を酌み交わしながら当時の懐かしい話や近況を語り合うのを楽しみにしており、退職後二十年近くを経た大先輩も毎年参加している。大湊は旧海軍時代から海軍軍人や海上自衛隊員と地元の人との暖かい交流の歴史があり、海上自衛隊員特に艦艇乗組員には佐世保に次いで希望者が多い基地でもある。以前、当かわら版で取り上げた「大湊（むつ）の三泣き」を改めて紹介すると、昔から大湊に勤務した海上自衛隊員の間には、「大湊（むつ）の三泣き」と呼ばれる話がある。一回目は大湊への転勤が決まるとあんな僻地に行くのかと泣く、そして二回目は実際に大湊に住むと地元の人々の人情に触れて泣く、三回目は大湊を離れる寂しさから泣くことを言う。大湊を離れてからも親しくなった地元の人との付き合いが続くのは、それだけ地元の人との交流が濃密であったことの証左だと思う。今回も本家「むつ市スキー協会」主催の交流会は旧知の人たちと美味しい地元食材と銘酒を味わいながら時間の過ぎるのも忘れるほど楽しい時間を過ごすことができた。



イーシスアシヨアー導入の失態と更なる試練・苦難

県隊友会相談役 寺地重告



二〇一七年に北朝鮮が相次いで弾道ミサイルを発射したことを受

け、政府はイーシス艦に加え、陸上配備型迎撃ミサイルシステム「イーシス・アシヨアー」の配備は日本の弾道ミサイル防衛の「要」と位置づけ、二〇一七年十二月に導入を決定した。海自イーシス艦のみでは隻数と行動の制約上、日本全域を二四時間三六五日、切れ目なく弾道ミサイル防衛することは不可能であり、この意味において政府の判断は極めて理にかなっており、最優先で実現すべき案件であった。

ところが、秋田県秋田市の陸自「新屋演習場」と山口県萩市の陸自「むつみ演習場」に配備予定であったイーシス・アシヨアーの配備計画を説明する段階で様々な問題が露見し、当初の全体予算見積り約四千五百億円（二基の建造費約二五〇〇億円と二十年維持費約二〇〇億円）をはるかに超える巨費と更に十年以上の歳月を要することなどが判明したとの理由で、二〇二〇年六月、当時の河野防衛大臣が配備計画を断念・撤回した。これらイーシスアシヨアー導入の失態と、これの代替えとして建造されることになったイーシスシステム搭載護衛艦の更なる試練・苦難について考察してみたい。

イーシスアシヨアー導入の失態

第一に、イーシスアシヨアー導入担当の失態
本土防空を担当するのは空自であるが、何故、弾道ミサイル防衛とは縁が薄い陸自がイーシスアシヨアーを担当することになったのか、私の頭では理解できない。陸自の基地・演習場内に整備するから陸自担当と安易な考え方で決めたとは思いたくもないが、本土防空の任務を考えれば、空自リーダーサイト探知能力の不足領域を補完するためにも、イーシスアシヨアーは空自が担当すべきであったと考え

る。
第二に、イーシスアシヨアー事前勉強と説明の失

態
陸幕は、演習場近辺の山の高さや山頂を見通す角度をあちこち間違え、さらには「発射した迎撃ミサ

イルのブースターをコンピューター制御で安全なところへ落下させます」等といい加減極まりない説明を繰り返して、配備候補地などに多大な不信感を与え、強い響響を買った。山の高さ・角度を間違つたと△定規の六度一割で暗算でもできるので論外であるが、「ブースターをコンピューター制御で安全なところへ落とす」に至っては、バカも休み休み言えと言いたくなる。そのようなブースターは世界中どこを探してもない。河野防衛大臣が「更に巨額の経費と一〇年以上の歳月を要する」とはこのブースターを含む新たな研究開発のことである。要するに、陸幕の上層部がこれら基本的なことを誰一人チェック出来なかった失態である。

二 イーシスシステム搭載護衛艦に関わる不可解と更なる試練・苦難

第一に、イーシスシステムの選定に関わる不可解と失態

候補に上がったのは、最新型のアクティブ・フェーズドアレイ・レーダー SPY-6 と SPY-7 であった。SPY-6 は、個艦・艦隊防空から弾道ミサイル防衛までも担う次

世代総合レーダーとして、米海軍とレイセオン社が開発した最新のイーシス艦用レーダー (AMDR: Air and Missile Defense Radar) であり、既に開発評価試験・弾道ミサイル迎撃試験なども終了し、初号機がアレイ・バーク級フライト III 番艦 ジャック・H・ルーカー (DDG-125) に搭載され昨年末就役した。今後、米海軍の新たな主力艦には全て SPY-6 が搭載



USS Jack H. Lucas (DDG-125)

され、また一部の既存艦にはバックフィットも計画される。

一方、SPY-7 は、米ミサイル防衛局とロックロード・マーティン社が二〇一五年に建設を始めたアラスカ配備の弾道ミサイル長距離識別レーダー (MDA) の技術を元に、レーダーパネルを小型化しイーシス・システムと連結しようとする Solid States Radar (SSR) であるが、まだ開発評価試験・弾道ミサイル迎撃試験なども全く未実施であるばかりでなく、未だこの世に実在しないカタログベースレーダーである。防衛省・海幕の機種選定作業の評価は、「SPY-7 が基本性能で高い評価を得た」ということらしいが、実在する SPY-6 と未だカタログベースで実在しない SPY-7 を性能・価格・調達可能時期などを含め、一体どのように比較検討されたのか？民間人は知る由もないが、その根拠が不可解であり、海幕の失態と言わざるを得ない。

第二に、イーシスシステム搭載護衛艦に関わる更なる試練・苦難

米海軍と海自は長年・強固な信頼関係を構築し、日米共通オペラビリティを維持する観点からも、米海軍が正式採用したシステムを採用してきた。しかしながら、SPY-7 は米海軍では採用されず、海自用のみの特別仕様としてこれから新たに開発するレーダーシステムであり、関連する戦闘指揮システムの開発、弾道ミサイルの探知追尾迎撃・評価試験、システム要員教育等、これらに要する莫大な経費を米側から求められることを含め、あらゆる試練・苦難が予想される。海幕はこれら新たな研究開発に関わる莫大な費用、米海軍の支援・協力が得られないシステム要員教育を含め、本当に真剣で喧嘩譁々とした検討を行ったのか？私の経験からは甚だ疑問に思う。

最後に、各幕防衛部におかれては、素人の政治家や内局の雑音に左右されることなく、真に求めるシステムを装備すべく、検討に検討を重ね頑張って頂きたい。これが、海自で長年ミサイル・戦闘指揮シ

システムの開発と戦力化に努めてきた老兵の独り言・切ない願いです。



脳の老化について思う

県本部監事役 寺田信夫



皆さん、突然、人の名前、地名及び良く利用する路線の駅名、或は身近な物の名前等を思い出せ無くなることはありませんか？ 私は最近、特に気になる様になり、ショックを受けました。明らかに脳の老化でしょう。

音楽まつり支援のため、京浜急行とJRの京浜東北を利用して横浜の石川町まで通っていますが、支援も佳境になり、音楽まつり当日に配布する雑誌・プログラムの2回目の印刷前の最終点検等で神経を使ったこの時期に、通過する近くの駅名を思い出せなくなりました。要因を考えてみました。

- ① 膀胱の癌手術後、癌は治っても、尿の貯水量が減り、夜間1〜2時間ごとに目が覚め、眠りが浅い。
- ② 妻がリノーマチに罹患し約20年になりますが大抵の家事を私が担当し、かなり多忙。
- ③ 脳の劣化を防ぐ、漢字の部首を組み合わせ熟語を作る問題、上下・左右に中心同じ漢字を入れて熟語を作る問題、ナンプレ等、惚け防止努力は継続している。
- ④ 音楽まつりの最終段階に至って、突然のプログラム内容の変更要望等で苦慮した。
- ⑤ 税務署で株の損失を4年間の所得から軽減するため、僅かな暇を見つけて確定申告を慌ただしく実施した。これが、最近の私の特異事項でした。

自分なりに分析すると、私は重要なことを実施する前には、寝ていても、頭の中で推移を反芻することがあります。年齢を重ねるに伴い、昔のことと重なり夢となることもあります。最近、脳科学者が言っていたことを思い出しました。「人間、特に老人の脳は、その時期、その人にとって重要、或は必要性が低いと思われる事項について、脳が勝手に記憶から排除する。」と言っていたことを思い出しました。これは私の想像ですが、脳のキヤパシティに負荷を掛けず、脳の機能を守るため、記憶を切り捨てているのではと思われます。

この様に考えると、記憶がなくなることへの恐怖が緩和され、気が楽になりましたが、このままで思い出しにくい駅名等、身近な事を忘れる事、それを放置することは精神衛生上、不適切で、また能力も問われるので原因と対策を考えました。

- ① 駅名が言えなくなる。この場合、その駅をほとんど利用しない。
- ② 駅名が地域、産業、名産品等との関連性が低い。等の原因が考えられます。

そこで、パスワードを思い出すために使用する鍵方式を利用することとしました。私にとって思い出せない駅が金沢文庫の次の「能見台」とその次「京急富岡」です。京急富岡は世界遺産の「富岡製糸場」と強引に紐付けましたが、能見台が適当な鍵が見つかりません。やむを得ず望ましくない、五十音のノで紐付けました。また、京浜東北線の新杉田から「磯子」「根岸」「山手」について、「区の名前」「根岸線」「山の手」等として紐付けると直ぐ思い出せる様になりました。

最後に、どんな人でも加齢とともに

脳の老化は避けられないと思われます。本当に重要な事、忘れたくない事項は、紐付けて記憶するとともに、思い起こす努力をすることにより少しでも脳の老化を遅らせることができると信じています。



趣味のない自分 「映画のはじり」

県本部理事役 入江哲二



映画を見なくなつて久しい。子供のころ（昭和30年前）の楽しみは、芝居か映画、私の育った田舎にも歩いて40・50分のところに芝居小屋兼映画館があった。映画が最大繁盛したのは昭和33年から45年にかけてのことである。国内で7千館、映画人口は1億1千万人もの本にあった。折も折、昭和33年4月舞鶴教育隊入隊、外出（上陸）が許される。確か0815から1600までであったと思う。夕飯は隊で食べていた。昼飯は携行食といってパンか乾パンをもらっていた。こんな短い外出時間である、なんにもする事ができない、「浮島映劇」だったかな、そこで映画を観るのが関の山、「鮫と小魚」「眼下の敵」というような戦争ものの洋画をいやと言うほどみたものである。10月舞鶴教育隊を終え第1術科学校へ入校する。



テレビは当時貴重品で、学校内でも娯楽室に1台置いてあったが、上級生がチャンネル権をもっているので殆ど観ることはない。随一上皇天皇の結婚パレードは観たか！20歳にならないので酒を飲むこともできない。（隠れて飲んでいる人はあった

が、時効）そのうえ制服を着て行動しなければならぬので行動範囲は狭い。その頃の一番の娯楽と言えば「映画」である。江田島の正門前に江田島映劇があったが数える程しか行っていない。目下呉に出るのである。歓楽街は13丁目であるが、同年春防止法ができたためすっかり寂れている。海側から山側に向かって1丁目から13丁目となっている。路面電車がその大通りに添って通っている。その左右に映画館が転々としている。映画専門、日活、東映、etcとあり、1週間単位で上映の内容が変わっていたようだ。土曜は半ドンであるので隊の中（参考館裏）で観る程度である、確か40・50円、日曜は午前洋画、午後邦画、学校に帰ってまた観ると言う具合で真に映画の梯子であった。あまり観すぎて内容は全く覚えていないのである。私よりもう一つ余分に観る人がいた、K君である。もっと他に趣味はなかったのかなお互いに？大部分の同期はパチンコで、ある人は一日中あの騒がしいパチンコ屋に入りびたりだった（パチンコも未成年はダメだったかな）。



昔の映画館街

学校に帰って映画を観終わると9時である。1日6本、9時間も映画館にいた計算になるのである。今の子供（大人を含む）が一日何時間もスマホの画面を見ているとか、批判はできない。かな？何年か前に映画を観た。映画館の狭さと

音の大きさに驚く。慌ててティッシュで耳栓をした。あれ以降映画館に行っていない。映画、スマホ、テレビも何年か後には廃れていくことになるのかな。「暇な時間を埋めていくのが自分の人生だったのか」と思うこの頃でした。



本当の歌詞を知って思うJUN

西湘支部 菊島 信洋



3月は卒業の季節です。卒業式の定番曲と言えば「仰げば尊し」と並んで歌われるのが「蛍の光」でしょう。JG曲は Auld Lang Syne というスコットランド民謡が原曲で、明治10年代に歌人の稲垣干穎(ちかい)氏が日本語の歌詞を付けたそうです。明治10年代と言えば西南戦争が終結し土族による明治政府への反対運動が武力から言論へ移行、自由民権運動が大衆に広がった時期です。政情不安定な世の中を憂い、これからの日本の担う子供たちには卒業してからも力を合わせて生きて欲しい、という願いをこめて作られたのだろうと想像し、調べてみると意外な事実を知ることになりました。私はこの歌の歌詞を2番までしか知りませんでしたが、実は3番と4番もあり戦前はきちんと歌われていたそうです。

- 3, 筑紫(つくし)の極み、陸(みち)の奥
海山遠く、隔つとも
その真心は、隔て無く
一つに尽くせ、國の為
- 4, 千島の奥も、沖繩も
八洲(やしま)の内の、護りなり
至らん國に、勲へ

努めよ我が背(せ:夫や恋人)、恙(つつが)無く

現代訳すると恐らく、九州から東北まで遠く離れていても、同じ真心で國の為に尽くそう。千島列島も沖繩も我が國の領土、日本各地で勇ましく務めを果たして欲しい。という感じだと思います。そしてこの曲は「告別行進曲」という名で海軍兵学校や海軍機関学校の卒業式典、部隊の離任行事などで歌われるようになったそうです。なんと「蛍の光」は軍歌なのでした。今も海上自衛隊で引き継がれているのでしょうか。軍歌でありながら敵や進軍という表現はまったくなく、国と平和を愛する歌だと素直に読めます。先人たちの言葉遣い、表現の豊かさには驚かされます。

時は移り日本は大東亜戦争に敗北し、GHQは日本人の愛國心を骨抜きにするため国史と地政学と修身の教育を禁止しました。そうしたことも影響し、3番と4番の歌詞は歌われなくなったようです。

そして「蛍の光」以外にも隠れた軍歌や軍国歌謡がいくつもありました。例えば、静かな静かな里の秋、で始まる「里の秋」は国民学校の教師だった斎藤信夫氏が昭和12年に「星月夜」という名で世に出されたものです。1番と2番は、「里の秋」と同じですが、3番と4番は全く雰囲気異なります。

- 3, きれいなきれいな椰子の島
しっかりと護って下さいと
ああ父さんのご武運を
今夜も一人で祈ります
- 4, 大きく大きくなったなら
兵隊さんだようれしいな
ねえ母さんよ僕だって
必ずお国護ります

この歌も今では4番は歌われず、3番も歌詞が変えられています。國を護る、という歌詞のどこが悪いのでしょうか。本来の歌詞を読むことで当時の社会情勢や人々の考え方が理解できるのであり、捨てるしまう必要はありません。子供の教育に悪影響だ



という主張こそナンセンスです。昔の歌を子どもや孫の代まで本来の歌詞のままきちんと歌い継ぎ、正しい日本の国づくり、人づくりを進めていきたいものです。



海上自衛隊東京音楽隊ホームページ
<https://www.mod.go.jp/msdf/tokyoband/gallery/photography/2018/2018.11matsuri/30matsuri08.jpg>



夢の話

西湘支部 廣井 淳



眠っているとき毎日のように見る夢ですが、たまにワッと飛び起きて「あー夢で良かった」なんてことがあります。この十年ばかり見なくなりましたが年に何回も繰り返して見ました。

① 帰艦時刻に遅れそうな夢。陸自、空自はもちろん、海自の陸上部隊も帰艦時刻は厳しいですが艦艇はこのほかうるさく、その遅れた時間によって上陸止め何日(その人が上陸できる日に上陸できない・・・上陸止めを一週間も食らうと三週間は土を踏めない)という処分を受けます。これは軽い方でもっとすごいと当然懲戒処分があります。

しかも当時の大型艦（といっても1700トン台）は沖のブイにつないであつて内火艇というボートで行き来するので余裕をもって帰らないと面倒なことになります。

夢は「あー遅れそう」で目が覚めます。私自身は遅れそうになつたことがないので不思議です。これは帝国海軍出身の方も同じことをおっしゃっていました。出港に間に合わないとは後発航期といつて重罪になります。

上陸時に玄門という艦の玄関の前に整列し上陸札を警衛海曹（先任の海曹で任命された人）に渡し、副直士官の「ただ今から上陸が許可される。明日の帰艦時刻〇〇」の注意事項等聞いて「かれ」でラッタル（タラップのこと）を降りて内火艇に階級の下の方から乗って陸へ向かいます。

② もう出港だというのに私の持ち場で何をしていたかわからない・・・というのもありました。変わったのでは、艦内の風呂にひとりでのんびり入っている時、（現実にはこんなことはまずありません）総員配置のアラームが鳴つたので私の配置の後部へスッポンポンで走つて行つたなんていうのがあつて（夢です）私もまだまだ兵隊として使えるな、と思ひました。鉄の甲板上を走つたので足が痛い・・・という感覚がありました。

艦内の部屋の床もかんぱんと呼びます。アラームは戦闘配置（対艦、対空、対潜）応急（火事、浸水等）で総員が配置につく時鳴らすカンカンカンという打鐘音でいやらしい耳障りな電子音です。私達電機員が管理しています。音の高さがちよつと神経に触る高さで、熟睡していても一発で目が覚めます。あまり聞きたくないサウンドです。このアラームを作動させるハンドルは艦橋の正面窓の下あたりにあり、アラームが赤、ガス警報（キューキューといつて音が違う）が黄色で、艦長か当直士官しか触っちゃダメと教わりました。このアラームはアメリカ製のもので戦時中の米海軍

はアメリカ製のもので戦時中の米海軍



を描いた映画にこれが出てきて乗員が艦内を走り回つていて「お気の毒に」と思ひました。でもこの時の相手はドイツ海軍か日本海軍なのですね。さすがにもう十年以上夢に出てきません。



上陸員送りの内火艇



↑

注：上陸時に出す上陸札。これは盗んできたものでなくカンナで削つて再利用するのができないほどペラペラになつたので退艦時にもらつたものです。山吉は旧姓、右舷というのは右舷に住んでいるのではなく単に半分に分けたもの。第三分隊は機関科のこと。これがないと上陸させてくれません。朝、札が残っていると「まだ帰っていないな」と分かります。山口県周防大島の陸奥記念館で見た上陸札は全く同じでした。

西湘支部だより



一 西湘支部の総会予定について

- ① 5月28日（日） 1100から1200
- ② 小田原市民交流センター「JUMKOKO」

二 年会費の納入案内について

年会費納入が極めて悪い6名のみ
年会費と特別会員の皆様に令和4年度の年会費の納入をご案内申し上げますが、現時点の

納入実績は、年会員及び特別会員合わせて6名のみであります。

年会員の納入率は極めて低いので令和4年度の年会費を未納の会員は早急に納入されますことをお願い致します。

年会費は 年会員、 30000円
特別会員、 100000円

納入先方法については、
さがみ信用金庫湯河原支店
店番011

口座番号 0873009

隊友会西湘支部 代表 柏崎 誠一
にお振込み下さい。

編集後記

ようやく新型コロナも終息の兆しが見え社会生活も平常に戻りつつあります。県隊友会の行事も一月防衛諸団体賀詞交歓会を、三月神奈川自衛隊音楽祭りを計画通り実施することができました。が、何れも3年ぶりの開催となり準備から実施まで戸惑う所も多々あり、3年間のブランクの重みとともに継続することの重要性を改めて感じます。

昔ではWBCの話題一色です。侍ジャパンの大進撃素晴らしいですね。侍全員が一丸となり世界一を目指す意気込みが伝わってきます。日本国民の心を一つにする侍ジャパンを皆で応援しましょう。

皆様のご協力により無事かわら版47号を発刊することが出来ました。ご投稿いただいた皆様に感謝申し上げます。特に、西湘支部の方からの沢山の稿ありがとうございました。引き続き皆様からの投稿をお待ちしております。宜しくお願い致します。



県事務局 小島